

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079900223		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム しじみ苑	ユニット名	A棟
所在地	福岡県田川郡大任町今任原3485-1		
自己評価作成日	平成25年10月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年12月20日	評価結果確定日	平成26年3月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い丘の上の広々とした場所に立地しており、リビングからは英彦山が見え周囲の山並みも一望出来る展望の良い所である。居室からは桜を見る事ができ、それ以外にも近隣に小学校があり子供達の元気な声が聞こえたり、季節的には運動会の行事などがあると招待を受けるなど交流も図れている。苑の建物は山のロッジ風の造りで木の温もりが感じられ、内部は天井が高く広々としており開放感もある。鷹羽会の理念に沿ってひとりひとりの思いを大切に、馴染みある地域で出来る限りその人らしい生活が続けられるように支援を心掛けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四方を見渡せる高台に広大な敷地を有しており、木造平屋建て2ユニットのゆとりある生活空間が広がっている。隣接して同法人のケアハウスがあり、日常的な交流や関係性の継続、合同研修の実施によるサービスの質の確保、災害対策における協力等、様々な取り組みにて連携を発揮している。今年度は、家族や地域の方々を招き、バーベキュー大会を企画し、総勢150名程の参加を得て盛況に開催されることや、近隣の小学校より運動会の招待状が届くなど、地域との関係性がうかがえるエピソードも多い。日常の暮らしは、入居者、職員それぞれの個性が発揮され、「普通感覚」を大切に暮らした暮らしの営みが伝わり、各ユニットの独自性や職員個々の主体性の発揮を大切に事業運営や風通しの良さがうかがえる。敷地内にはあらたな施設も開設されることから、地域の高齢者拠点としての存在の高まりが大いに期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	代表が大切にしている法人の理念である「ひとりとはみんなのために、みんなはひとりのために」込められた思いを職員ひとりひとりが理解をし、朝の申し送り前に職員一同で唱和して一日の始まりとしている。	理念は、日々のミーティングやユニット会議、全体会議の中で、確認や振り返る機会を持ち、相互扶助や協働、個人の尊重を念頭に置き、実践につなげている。管理者、職員の、自然体での関わりが印象に残る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校との交流会や中学校の職場体験、地域の神幸祭で神輿が訪れるなど地域住民との交流がある。また、ケアハウスの方との合同行事もあり、元々ケアハウスで生活されていた利用者も懐かしそうに馴染みの入居者との交流が図れている。	近隣小学校より運動会の招待状が届き、見学に出掛けたり、文化祭への出品や神幸祭の神輿の巡行を受けている。家族や地域の方々を招き開催されているバーベキュー大会は、総勢150人程の参加を得て、盛況に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて行政や地域住民の代表や地区の民生委員、利用者の家族に投げかけたり相談したりして交流会の機会を設けて頂くよう話しをしているが現状なかなか実践に至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニットより家族代表の参加があり、役場職員や区長、民生委員などで構成されており2ヶ月に1度開催している。事業報告や入居者の生活状況 事故報告等を細かく行い状況に応じ助言を受けている。	運営推進会議には、各ユニットの複数の家族、地域住民代表、民生委員、町役場職員等の出席を得て、定期開催されている。運営状況やヒヤリハットの報告や地域情報の共有、行事予定等を案内しながら意見交換を行い、運営への反映に努めている。議事録は、玄関ホールにて開示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者を筆頭に職員とも交流があるので会議以外にも分からない事等があれば気さくに相談ができ協力が得られている。	運営推進会議には、町役場職員の出席を得ている。相互に訪問する機会があり、情報共有意見交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室には鍵が無く、日中の施錠も行っていない。エスケープ防止の為にセンサーを設置し感知した際はすぐに対応が図れるように心掛けている。	法人全体研修の中で、各部門が持ち回りで講師を務め、研修を実施している。今年度はスピーチロックを重点的に取り上げ、活発な意見交換や共有認識を計る機会となった。玄関の施錠は行っておらず、センサーは設置されているが、入居者より音に関する苦情もあり、現在は使用されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1度、内部研修会を行い職員全体が虐待防止について認識している。内部研修会以外にも毎月のミーティングで状況に応じ議題に挙げ話し合いを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する資料を手軽に見れるようにパンフレットやポスターなどを準備している。家族からの相談は無いが、いつでも相談できるような雰囲気作り心掛けています。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、資料等を閲覧可能とし、重要事項説明書にも明記するなど、必要時には活用に向けた支援が出来るよう、情報提供を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を分かり易く例を挙げながら説明し、起こりうるリスクなどを伝えている。また、法改定の際の変更等に関してもきちんと家族に説明を行い理解と同意を得ている。施設側から不明な点は無いかを尋ね話しやすい状況作りに努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からこまめに家族の面会があり、入居者の状況報告を行い理解を頂いている。その際には家族からの意見や要望、入居者の要望等を毎月のミーティングで共有し話し合いをし運営し反映できるように心掛けている。	家族も参加する行事は盛況に開催され、また、面会記録から、日常的に、家族や親族、知人等の来訪を頻回に受けていることが確認でき、当事業所の特徴でもある。玄関のセンサーは、音が気になる入居者の方の意見もあり、現在は使用されていない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開いており、また2ヶ月に1度は内部研修を設け代表も含めた全体ミーティングも行っており、要望や相談等が出来る機会がある。また、それ以外にも食事会などの機会も設けられており代表を交えた交流の機会がある。	職員個々の主体性の発揮を促し、各ユニットのミーティングでは活発な意見交換が行われている。また、職員の定着率の高さや、法人代表者が現状を理解していることから、風通しの良い事業運営がうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得など職員の質の向上を促し、職員の努力や実績を認め、定期的な把握に努めている。就業規則に沿って代表よりオーバーワークにならないよう指導し状況に応じて整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたっては年齢や性別などの制限はなくヘルパー2級取得を基本としている。本人の意欲や、その人の持つ雰囲気など入居者との馴染みの関係性を考え採用の際は代表とリーダー職員が採用を検討し決定している。外部研修を促し、学びたい個々のスキルアップの援助も行われている。	法人としての採用となり、勤務先を指定し、常勤採用を基本としている。資格要件はあるが、年齢や性別による排除は行っていない。外部研修参加に向けたサポートを行い、希望や持ち回りで参加しており、実践者研修の受講者も多い。産休の取得や復帰に向けた支援等、働きやすい環境作りに取り組み、レクや手芸等にて、職員の得意分野を発揮する機会がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の機会が少ない。ミーティングに限らず、日々の業務の中で職員間で意見を出し合い、入居者への個人ケアについて話し合っており取り組んでいる。	人権研修としての受講機会は少ないが、実践者研修等の外部研修参加や、今年度は、スピーチロックについての研修や実践報告会を実施する等、重点的に取り組み、様々な視点から意識向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた研修参加を促し参加できるように配慮している。研修報告を定期的に行い、職員全体が共有できるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年4月より、違う場所で系列のグループホームが開設され、内外部研修の参加を利用し情報や相互の活動を通じてサービスの質を向上させていけるように働きかけている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの関係が築けるよう入居者の性格を理解し、日々の何気ない会話などから見えるその人の思いなどを汲み取り、安心感が得られるように職員・その他の利用者との関係作りにも努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しい環境は認知症高齢者にとっては大きな精神的ストレスになり、行動障害を引き起こしたりする要因でもあるので、まずは本人の性格や生活歴を家族から情報を収集し、安心感が与えられるような環境作りに努め、そこから少しずつ馴染みの関係が築けていけるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、家族からの情報収集、また家族へのこまめな状況報告を行いながら、その時に応じた対応を家族の協力を得ながら行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体は利用者である事、職員はあくまでも利用者にとっては環境の一部である事への認識してもらっている。業務優先になりがちにならないよう毎月のミーティングや日頃のコミュニケーション時でその都度伝えている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症高齢者にとって支援する上で、家族の存在は不可欠であり、協力が必要であるため、その旨を十分家族には説明と理解をして頂き、信頼関係が築かれるようコミュニケーションはこまめにしている。何でも言ってもらえるような雰囲気にも心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のケアハウスより入居された利用者もおり行き来が出来る環境。昔から行きつけの美容院への外出や行事で外出レクを行った際には馴染みの町で長年生活された利用者にも気軽に声を掛ける場面など関係が途切れないで今に至っている。	日常的に、家族や親族、知人の方の来訪が多いことが、面会記録から確認できる。ドライブの途中で、以前住んでいた場所に立ち寄り、行きつけの美容院の利用等を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、居室にこもる利用者は殆どおらず、リビングで過ごしている。役割提供やレク活動等、利用者皆が関わり合える環境となっている。最近では、加齢と共にトラブルが多少増えては来ているが様子を見ながら上手く職員が間に入りフォローが出来るように心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても今後も何かあればいつでも相談して頂くよう家族には説明をしている。縁を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか自分の希望等が「分からない」と返事として返ってくるが、日頃の様子やちょっとした言動や行動等から本人の思いを把握しケアに反映出来るように取り組んでいる。	日々の記録は、個別の日常の様子がわかりやすく記載されており、職員間で共有している。意思や感情の表出の場面を大切に捉え、表情や仕草等からも思いを汲み取るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経緯を家族から細かく情報を聞き取り、利用者の生活の様子を把握しケアに活かせるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃と何か様子が少しでも違ったりした時は些細な事でもケース記録に記載するよう職員全体に情報の共有が出来るようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子から見いだせる本人の言葉や行動、また家族からの意向や思いがあれば取り入れ、モニタリングを実施し現状の把握と見直しの必要性があれば検討しケアプランを作成している。	毎月のミーティングでは、個別の心身機能の維持や活用について協議が行われており、介護計画への反映や日々の実施状況の確認が行なわれている。本人や家族の意向を反映しながら、個別性ある介護計画が作成されている。	これまでの暮らしに関する情報収集や、現在取り組んでいる機能活用の根拠となる客観的な情報等、アセスメント様式の充実に取り組むことにより、本人、家族の思いの反映や、効果的なモニタリング実施に結び付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子はケース記録に記載するようしており、また毎月行っているミーティングでは職員側から出てくる気づきの情報を上手く反映しながらモニタリングを実施し、見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症高齢者は個別の対応が求められておりその時々で求められるニーズや本人の状況によって一番ベストな方法で支援出来るよう家族にも状況報告をこまめにし協力を得ながら支援出来るように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みある環境と人と人との関係が途切れないよう行政や小学校、保育園や中学校などの交流会をうまく活用したり、希望する美容院への援助や買い物の援助など外出の機会を作り本人らしい生活が送れるように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用している医療機関に関してはそのまま受診が出来るように本人と家族に意向に沿って継続している。定期受診とは別に突発的な体調不良時にはその都度専門医への受診を受けており、こまめに状況を家族にも説明をして把握して頂いている。	本人、家族の意向による、これまでのかかりつけ医との関係性を大切にとらえ、受診の支援や訪問診療を受けている。また、複数の医療機関や専門医、訪問看護ステーションとの連携を図り、日々の健康管理や適切な医療を受けられるよう支援を行っている。看護計画が整備されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜に訪問看護が来苑。日常生活での様子や些細な事でも聞きたい事を何でも相談している。健康管理に関してや服薬に関してのアドバイスももらっており夜間でも24時間連絡が取れるような環境なので上手く活用が出来ていると思う。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはMSWや専門スタッフに必要な情報提供を行い、施設側と家族側の意向も踏まえ早期退院が出来るように連携を図り対応を施している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応指針」を示し、家族からの同意を得ている。加齢と共に心身の状態が低下し、重度化している利用者もおお家族からの要望を取り入れ日頃から利用者の様子を家族には報告し現状の理解をして頂いている。職員にも心構えをしてもらうよう認識してもらい、看取りに関してチーム全体で協力を得ながら支援が出来る限り行えるように取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに説明を行い、意向確認及び同意を得ている。本人、家族の意向に応えられるよう、出来る限りの支援を行うために、家族や医師、看護師、職員等との話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習やそれ以外での内・外部研修を取り入れ、入居者の急変や事故が起きた時には迅速に対応が出来るよう日頃から投げかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年2回の通報・避難・消火訓練を実施している。また、隣接のケアハウスとの連携も図っている。	消防署の指導のもと、夜間を想定し、臥床位の状態からの避難・誘導訓練を実施している。事業所への到着時間を考え、緊急連絡網を作成し、職員や近隣住民が駆けつける体制となっている。隣接するケアハウスとの連携や備蓄品の整備、定期的な電気系統の確認等の災害対策が行われている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居期間も長くなると馴染みの関係がある程度築けており、親しみ込めた関わり方と方言を交えたコミュニケーション、時には喧嘩もしたりと相手の喜怒哀楽をある意味大切に、その後には必ず利用者のフォローをする配慮しながら対応するよう心掛けている。	意思や感情を表出できる場面を大切に捉えている。また、個別の時間の流れや居場所の確保、かかわりの距離感等にも意識を持ち、支援を行っている。介助の際や入室時の確認も含め、個人の尊重やプライバシーの確保に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志を尊重し、どうしたいかを尋ねている。その為には遠慮なく何でも言ってもらえるような雰囲気や環境を作り心を掛けている。買い物や美容院や電話の取り次ぎなど自己決定が出来るよう心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の心身の状況や職員の体勢によっては必ずしも希望に添えていない事があり申し訳ない事もあるが、生活の主体は職員ではなく、利用者である事を職員には認識してもらい、個々に沿った生活スタイル、ペースを一番に無理強いする事が無いように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時には本人の着たい洋服を準備したり、してもらったりしている。また、病院や行事で外出する際は化粧をしたり、希望する化粧品の注文なども行っており身だしなみ出来るよう心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	極力季節感を感じてもらえるよう、食材には季節物を取り入れるように心掛けている。嗜好に関しては別の食材で対応したりと個別にそった物を準備している。個々に応じた、役割の提供を行い、利用者の発揮する場面を支援している。	各ユニットごとに献立を作成し、嗜好やバランス、季節感等に配慮している。時には、入居者と共に買い物に出掛けたり、敷地内の野菜が食卓を賑わす場面もある。個別に応じて、形態等にも細やかな配慮を行いながら、「食」を楽しむ為の工夫が凝らされている。焼肉やピザ等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康チェック表やパターンシートを作成。水分量や食事量などが一目で把握出来るように工夫している。持病の病気によっては病院の指示ももらいながら主食量を決め、肉と魚を上手に取り入れたバランスの良い食事作りに心掛けている。常食摂取が困難な利用者には刻み食、ミキサー食を提供し個々の対応にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアに努めている。義歯は職員が洗浄、夜間は義歯を預かり洗浄剤にて消毒をしている。自身の歯は磨いてもらい不十分な所のみ介助にて磨いている。また、週に1回訪問歯科来院し定期的に口腔内の診察も行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンシートを準備し時間時間で誘導や失禁確認、排泄のパターンの把握に努めている。機能維持の為に出来る事は極力介助はせずに見守りながら対応している。	パターンシートを活用し、個別の状況や排泄パターンの把握に努めている。日中は出来る限りトイレでの排泄が可能となるよう、声かけや介助を行っている。また、日常の中での機能維持、活用に向けた働きかけを継続しており、必要な支援を見極めながら、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便2日になったら排便コントロールを図るよう訪問看護の指示を仰ぎながら便秘にならないように個々に応じた予防に努めている。便秘の及ぼす影響など、働きかけなどは毎週訪問される看護師にその都度指示をもらいながら対応。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴と決めている。入浴の時間帯は本人に確認が出来る方には確認をしている。行事などで入浴日の変更があった時は翌日入浴を希望される方は入浴をしてもらうなど個々に沿った支援を提供している。	ユニットにより対応は異なるが、週に3回程度は入浴できるよう、希望や体調、状況等を確認しながら支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の殆どが日中はリビングにて過ごされており、リハビリや役割提供活動、レク活動などをして過ごされている。その日によって体調がすぐれない時などは休んでもらうなど個々にあった過ごし方を見守っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者毎の薬の処方箋ファイルを準備しすぐに確認が出来るように設置している。薬の変更時は申し送りやケース記録に記載し各スタッフが確認出来るようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ひとりひとりの出来る事・出来ない事を日々の様子から把握し役割提供や買い物、リハビリやレク活動を支援している。また、誕生日には食べたい・行きたい要望を取り入れ外出したりと気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望時や天候に応じて、年間行事での外出や個別に買い物や美容院への外出送迎を行い、お互いに協力をしながら気軽に外出が出来るよう支援している。	高台に広大な敷地を有し、職員手作りの花壇や畑での野菜作りも行われている。希望や体調、季候等に応じて、気軽な外気浴が行える環境にあり、隣接するケアハウスとの合同行事参加や、少人数でのドライブや外食等の機会も設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な利用者には限度額を決め管理して頂いている。自己管理が困難な方に関しては家族の承諾の下で施設側が管理を行っており必要物品や日用品、希望品などを購入する等している。その際は家族への説明と、金銭出納帳に入金詳細を記載し確認して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や身近な人への連絡の取り次ぎが出来るよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けで非常に開放感があり、天窓からは自然の光が取り込めるなど自然を感じられる山々に囲まれた造りとなっている。電飾も暖色で暖かさが感じられる場所となっている。利用者にはその都度寒暖の確認を行い、状況に応じその都度温度調整を行っている。	高台にある平屋建ての建物は採光も良く、天井の高さや周囲の景色と共に、開放的な空間を印象付ける。行事の際の写真や季節感ある飾り付けがなされ、食卓やソファ等、その時々に応じたくつろぎの場所がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に席の固定設置はなくいつでも好きな場所へ移動してもらえらるようになっている。気の合う物同士パズルをしたり、見かねて一緒に参加する方もいれば、少し横になりたいと居室へ行き休まれるなど思い思いに過ごされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物品等があれば是非持ち込んでもらえるように説明をしている。本人の希望や家族からの意向を取り入れ、本人の身体状況や事故の危険性が懸念される物以外であれば何でも活かしてもらい安心して過ごしてもらえるように配慮している。	家族により写真が掲示されていたり、携帯電話の所持や化粧品が並ぶ居室もあり、入居者それぞれの方の暮らしぶりが伝わる居室作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ひとりひとりが見渡せる造りとなっており、居室にこもる利用者も殆どおらず、「出来ない事」に目を向けるのではなく、本人の「出来る事」に着目し自立支援を心がけている。		